サンタ足跡発見か

札幌、北見など道内各地

後継者を連れて視察も?

なぜ一晩のうちに多くの場所で同じ足跡が発見されたのか――。先月27日深夜から翌朝にかけて、札幌・旭川・北見など北海道内各地でサンタのものと思われる謎の足跡が発見された。足跡はいずれも長さ約40㌢で、これまで発見されたサンタの足跡と一致。同チームではこの現象を不思議としながらも「異例の事態」と捉え、チーム全体に緊急連絡。警戒を強めるよう呼び掛けている。

どうしん夢プロジェクト

街がクリスマス色に染まりつつある11月末、サンタ捜索チームに信じ難いニュースが飛び込んで来た。27日深夜、捜索チームに足跡発見の報が入ったのを皮切りに、道内各地で続々と足跡の発見が相次いだ。捜索チームの発表によると、この一晩で発見されたのは旭川市買物公園、北見市ではJR北見駅周辺、小樽市・望洋台の住宅街、帯広市では帯広図書館付近などで10カ所にも及ぶという。いずれの場所でも発見されたのは足跡のみで、トナカイの足跡や笑い声、鈴の音などは聞かれなかった。

捜索チームが各地から寄せられた足跡を検証すると、長さ約40㌢で一昨年にさっぽろテレビ塔で発見された足跡と一致した。同チームでは「一晩でこれだけ多くの場所で同じ足跡が発見されるのは人為的ではない」といい、足跡はサンタものである可能性が高いと判断した。

謎の足跡が発見された住宅展示場＝28日、豊平区

住宅展示場で複数の足跡も

さらに捜査員たちを驚かせたのは、住宅展示場「北海道マイホームセンター札幌会場（札幌市豊平区）」で発見された足跡だった。同センター内「ウエルカムスポット」の屋上に、2人分の足跡が残っていたのだ。その足跡もサンタと思われる足跡と同様の長さ約40㌢で、二つの足跡は併走する形で雪上に残されていた。発見したのは、ウエルカムスポットに隣接するモデルハウス「北海道セキスイハイム」の吉永将樹さん。吉永さんによると、28日早朝にこのモデルハウスへ来たとき、南東部のバルコニー付近に大きな足跡を発見。不思議に思いバルコニーの外を見ると、隣のウエルカムスポット屋上にも足跡が見えたという。足跡はウエルカムスポット屋上からモデルハウスバルコニーに移動したように見え、同社はすぐさま捜索チームに連絡し、今回の事件が明らかになった。

複数の足跡が発見されたことについて、同チームでは「サンタが後継者を連れて視察に来たのでは」と推測する。人のいない深夜の住宅展示場で起こっていることや煙突を探した形跡があることにも言及し、サンタは誰にも見つかることなく後継者に自分の〝仕事〟を見せたかったのではと見解を発表した。同チームでは今後も現場検証を行い、発見された状況や時間帯など詳細に調査を行う方針。

太陽光発電に興味

バルコニー他複数の足跡

捜査チームのその後の調べで、発見現場である北海道セキスイハイムのモデルハウスでは、南東部のバルコニー以外にも多くの足跡が残されていたことが明らかになった。

発表によると、同モデルハウス1階のアウトドアリビング、2階バルコニーなど3カ所、合計4カ所で複数の足跡を発見。いずれも家の中をのぞこうと歩き回った形跡が見られた。特に太陽光パネルが設置されている2階北側では、パネル付近を入念に歩き回った跡が残されていた。

この現象について、特捜班「飛行偵察部隊」を統括するサンタ研究の第一人者・アダムスキー博士は「サンタは太陽光発電の家に興味を持ったのでは」と話す。「実はサンタのソリにも大量の太陽光パネルが設置され、サンタはそのエネルギーで空を飛び世界中の子どもたちにプレゼントを配っている。サンタが自分のソリに付いている太陽光パネルと最新型モデルハウスのものでどう違うのかを検証したのかもしれない」。同社は太陽光発電システムを搭載した住宅づくりに力を入れており、環境面からこの家を選んだ可能性はあるという。「地球環境に配慮した家に住む人は、人にもきっと優しい。もちろん〝いい子〟も多いはず。サンタはそんな思いもあってこの家を視察の場所に選んだのでは」と推測する。また、長年の研究で、サンタは夢が集まる場所に来る存在であることから、アダムスキー博士は「家族の希望や夢が詰まったモデルハウスにサンタが来るのは想像に難くない」と語る。

太陽光パネル横で見つかった足跡＝北海道セキスイハイムのモデルハウス

子どもたちがその到来を待ちわびるのがサンタクロースだ。子どもにとってサンタは「喜びを運ぶ優しいおじいさん」と認識されているが、子どもはいつごろからサンタを認識し始めるのだろうか。

赤ちゃんが笑い始めるのは生後2カ月ごろ、他人を認識し始めるのは5カ月ごろから、親以外の他人に親愛の情を抱くのは1歳ごろからといわれている。したがってサンタを「優しいおじいさん」として認識するのも1歳ごろと推測できる。

サンタ認識は何歳から?

赤ちゃんの認識能力には諸説あり、かつ、個人差もあるので一概にはいえないが、いずれにしてもサンタについての絵本を読み聞かせるなど、早い段階でサンタの話をしておくべきだろう。家の中をクリスマス用にきれいに飾りつけ、BGMにクリスマスソングを流すなど、赤ちゃんの情操面を考えての環境づくりも大切といえる。

セキスイハイムが全面協力

サンタが来る家に

今回、謎の足跡を発見した吉永さんは「まさか本当にサンタの足跡の可能性があるとは」と驚きを隠さない。「もしかしたら良い子の元に訪れるサンタの好みと、わが社の〝子どもが賢く育つ家〟という家づくりのコンセプトがマッチしたのかもしれません。良い子が育つ家はどんな家か、サンタが視察に来た可能性もありません」と推測し、子育てにおける家づくりの大切さを強調した。

家族代々で住み継ぐ家を

さらに吉永さんは「サンタが好む良い子が育つためは、家族のコミュニケーションが大切です。心を通い合わせる環境づくりは、イコール家づくりだとわが社では思っています」とも語る。「当社の理念は〝長く住める家づくり〟にあります。サンタを夢見る子どもたちがやがて大人になり、新しい家庭を持ってその子どもたちを育てるようになっても、同じ環境でサンタを迎えられる。そういう長く住み継がれる家づくりを目指しています。代々サンタが来たくなるような家を造っていきたいですね」。

また「当社は全道各地に展示場があり、住宅フェアなどのイベントも行っています。もしかしたら札幌だけでなく他の展示場にもサンタが現れるかもしれない。捜索チームに逐一情報を提供していきます」と全面的な捜査協力を約束した。

「サンタや家族に優しい家づくりをしたい」と語る、北海道セキスイハイムの吉永さん

企画制作／北海道新聞社広告局

この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご理解、ご了承願います。次回は12月中旬朝刊予定

どうしん夢プロジェクト 広告企画

今月の“見どき行きどき”

セキスイハイム住宅フェア

今回のニュースを受けて北海道セキスイハイムでは、12月23日まで全道の住宅展示場や現場見学会で「セキスイハイム住宅フェア」を開催する。今回発見されたサンタのものと思われる足跡を、展示場を訪れた家族に探してもらい、見つけた人たちにプレゼントを用意している。また、「リユースハイムキャンペーン」と題して、現在使用中のモデルハウスを抽選で1棟、展示終了後に再利用販売価格で提供する。クリスマスに向けて、マイホーム購入を考えている家族に「夢を贈る」準備を着々と進めている。

同社企画部の吉永さんは「子どもから大人まで夢を届けてくれる存在のサンタとともに、皆さまを迎えるわれわれとしても精一杯のことをしたいと思っています。来場者の皆さまに向けてセキスイハイムからささやかなプレゼントを準備しておりますので、ご家族おそろいでお越しいただければ」と語り歓迎ムードを高めていた。同フェアについての問い合わせはセキスイハイム☎0120・369・816へ。

（C）北海道新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。